

平成23年度 第42回千葉県中学校バスケットボール新人大会 総評

千葉県小中学校体育連盟主催、千葉日報社他後援の第42回千葉県中学校バスケットボール新人体育大会は11月6日(日)、12日(土)、13日(日)の3日間、旭市総合体育館をメイン会場とした4会場で行われた。

男子のベスト4には、シードから順調に勝ち上がってきた八千代松陰中(八千代)、酒井根中(柏)、葛飾中(船橋)とノーシードからの富岡中(市川・浦安)が出そろい、準決勝は八千代松陰中对富岡中と、葛飾中对酒井根中の対戦カードとなった。スピードと高さを生かしたバスケットを展開した八千代松陰中と、シュートの正確さと、1対1の強さが光った葛飾中が決勝に進んだ。

決勝戦は八千代松陰中がオールコートマンツーマンディフェンス、葛飾中学校がハーフコートマンツーマンディフェンスでスタート。序盤から、葛飾中は君塚の3ポイントで先制すると、脇黒丸、赤川と立て続けに3ポイントが決まり得点を重ねる。八千代松陰中もポイントガードの若狭がリズムを作り、佐藤のインサイドで葛飾中に迫る。第2Qで八千代松陰中の西山のカットインが立て続けに決まりリードを奪い35対26で前半を終える。後半に入り八千代松陰中は佐藤のリバウンドから渡辺の1対1で葛飾中を突き放そうとするが、葛飾中もスティールからの速攻で食らいつく。第4Q、八千代松陰中の佐藤のインサイドシュートが立て続けに決まり、追いつく葛飾中を振り切る。最後までリズムを崩さなかった八千代松陰中が新人戦2連覇を達成した。

一方女子の準決勝の組み合わせは昭和学院中(市川・浦安)対船橋旭中(船橋)と、東金東中(山武)対市川七中(市川・浦安)の対戦カードとなった。ベスト4に入るまでには僅少差の試合も多くあり、特に東金東中对市川七中では残り数秒まで勝敗の行方がわからない接戦となった。決勝には、県新人戦5連覇を狙う昭和学院中と、準決勝で接戦をものにした市川七中が進出し、3年ぶりの市川・浦安支部同士の対戦となった。

決勝戦は昭和学院中がオールコートプレスディフェンス、市川七中はオールコートゾーンプレスから、ハーフコートゾーンディフェンスでスタート。昭和学院中は小野尾のカットインからのジャンプシュート、赤穂のリバウンドからの速い展開で着実に点を重ねる。対する市川七中も伊藤、荻野の1対1を中心に激しいディフェンスからの展開で昭和学院中に食らいつく。両者譲らない展開も、32対25で昭和学院中リードで前半を折り返した。後半になると昭和学院中赤穂のリバウンドシュートが連続で決まりだし、じわじわとリードを奪う。市川七中もロングパスを使った速攻で巻き返しをねらうが、昭和学院中をとらえるに至らず、終始インサイド中心とした堅実なプレイをした昭和学院中が5年連続15回目の栄冠を手にした。また敗れはしたものの、市川七中の最後まであきらめず果敢に攻める姿勢には、拍手を送りたい。

今大会では新人戦ということもあり、試合を重ねていくごとにすばらしいプレーが多く見られるようになってきた。春の選手権までの約6ヶ月の間に、選手達がどれだけ成長するのかがとても楽しみである。

最後になりましたが、TO指導や会場準備など、開催地区である東総支部の役員の方、先生方、生徒の皆様、お手伝いいただいた香取支部の先生方、関係者の皆様のご尽力により大会を無事終えることができました。心よりご協力に対し感謝いたします。

文責 県中体連バスケットボール専門部
報道部 中村 圭吾(富里中)